

## 2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 31 日作成)

委員会名	サステナブルシティWG	主 査 名：三浦秀一
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会	委員長名：成田健一
設 置 期 間	2004 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>循環型社会システムを構築することによる持続可能な地域形成の可能性を検討し、その具体化に向けた方法を提示する。</p> <p>その中でも、バイオマス資源の利用については重点テーマとして取り上げる。資源量から見た可能性、建築や地域から見た利用可能性、トータルなシステム構成の例などを検討する。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>三浦秀一(東北芸術工科大学) 村上公哉(芝浦工業大学)</p> <p>須藤諭(東北文化学園大学) 依田浩敏(近畿大学)</p> <p>福田展淳(北九州市立大学) 中島裕輔(工学院大学)</p> <p>松原斎樹(京都府立大学) 吉田友紀子(国立環境研究所)</p>	
設置 WG (WG 名:目的)		
2004 年度予算	90,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	<p>委員会 9月1日:3名、10月15日:3名、3月8日:4名</p> <p>公開勉強会 3月15日サステナブルな都市づくりと地域エネルギーシステム ~ 都市環境工学と都市計画・地域計画の連携 ~</p>
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>循環型社会システムとバイオマス利用、建築計画や地域計画の果たすべき役割を明確にすることができた。海外の先進的な事例におけるバイオマス利用方法と国内で進みつつある木質ペレットなどの導入状況について調査を行った。地方自治体における公共施設のエネルギー供給計画としてのマイクログリッドについて、その可能性や具体的な計画イメージを提示することができた。その他、新エネルギー全般を地域の計画としてどう位置づけていくかということについても調査した。</p> <p>シンポジウムを行い、これらの成果を発表するとともに、都市計画・地域計画との連携についても議論することができた。</p> <p>委員会 HP アドレス:</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>循環型社会システムを構築することによる持続可能な地域形成やバイオマス資源の利用、マイクログリッドなど、建築や地域のエネルギー需要側からの計画が重要であることが確認された。都市計画・地域計画との協議によって、総合的な視点での計画検討が必要であることも確認された。</p>
その他評価すべき事項	